



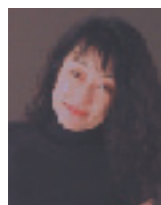
Exterior Color Seminar

色は時代をものがたる 西島 幸子氏

冬の日本海側のどんよりしたグレーの空。
降り積もる雪の白。
厳冬に訪れた北海道、北欧フィンランド、スウェーデンも同様に積雪・新雪・氷などさまざまな白からグレーのバリエーション。
色みのないモノトーンの世界、それは美しいものでした。

冬のイメージカラー 白

色の好き嫌いは個人的なモノと思われがちですが、その個人を取り巻く気候や風土など地域特性を調べてみますと色に関しては、緯度が大きく関係しています。日照の良い地域では暖色系の強い色が、曇りがちの地域では弱く優しい色が好まれ、また美しく見えるようです。建物の外壁をとりましても、千歳空港から札幌市内に向かう車窓から見る住宅の外壁色とヘルシンキ、ストックホルム郊外の住宅外壁色は寒色系パステルトーンでとてもよく似ています。

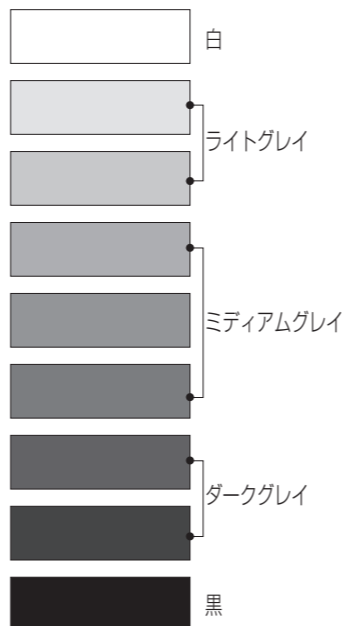


■ COLOR WORKS
西島 幸子 (Nishijima Sachiko)

化粧品会社制作部でパッケージデザイン、デザイン会社等でカラー・パッケージデザイナーを経て1995年、COLOR WORKS設立。
色を切り口とした商品企画・パッケージデザイン・カラープランニングを手がける。
(社)日本パッケージデザイン協会会員
(財)日本色彩学会会員
(社)日本流行色協会会員
著書：COLOR WORKS 花と色のメッセージ 誠文堂新光社
所在地：東京都目黒区自由が丘1-21-7

私たちは色を見てイメージを膨らませ、イメージを色で表したりします。

- 白** 色みのない白はもっとも明るく、純真・清潔・爽やかなイメージが強い。
- グレー** 最も明度の高い白～明度の低い黒の中間の色。どっちつかずの曖昧、不安定のイメージもありますが、反面、抑制された色ということで都会的・洗練・知的なイメージもあります。江戸時代は「四十八茶百鼠」と呼ばれるほどさまざまなグレー（グレイッシュも含む）が粋な色とされ流行しました。
- 黒** 光を完全に吸収する黒はもっとも暗い色。古今東西問わず、不吉・絶望・恐怖を象徴する色です。しかし、格調のある・あかぬけた・都会的なイメージも強く反応されています。色と色を分離させたり対比させるスタンドグラスや量の縁取り、重厚感、高級感を表現するときにも用いられます。



色は人間の生理や感情に大きな影響を与えます。たとえば同じ大きさ・形の荷物でも、白より黒の方が1.8倍重く感じられるという実験結果がでているほどです。建物においても白っぽいモノは軽快で大きく、黒っぽいモノは重く小さく見えます。白から黒までの間には無数のグレーが存在します。建材でいえばアルミ・ステンレス・コンクリート・石など。モダンでクールに使われることの多い素材ですが、素材も色も組み合わせしだいで豊かな表情が生まれます。



特に白・グレー・黒のモノトーンに準ずる、オフホワイト、象牙色、ベージュ、チャコールグレー、シルバーグレーなどは色と色をつなぐ色として使い勝手がよく、面積によってはベースカラーにもアクセントカラーにもなります。

